

## 気仙沼・本吉圏域の観光の現状・課題・方向性及び具体的な取組の視点について（案）

## 圏域の観光の現状

観光客入込数は、ようやく震災前の水準を上回ったものの、宿泊観光客数は今なお震災前の水準に届いていない。

## ◆気仙沼圏域の令和元年観光客数

- ・観光客入込数 3,711千人  
【H22年比102.4% H30年比126.0%】
- ・宿泊観光客数 416千人  
【H22年比94.4% H30年比105.1%】

※令和元年観光統計概要（速報値）

魅力ある観光資源が多数存在しているにもかかわらず、それを外部に伝える情報発信力が弱い。

密になりやすい屋内の観光が避けられ、アウトドアの観光が好まれるなど、コロナ拡大により観光ニーズが変化してきている。

首都圏など感染症が拡大している地域との往来にはまだまだ躊躇がみられる。

三陸沿岸道路延伸、気仙沼がNHK朝ドラの舞台として決定するなどポジティブな動きがある。

仙台空港や仙台駅からの交通アクセスが良くない。

## 圏域の観光の課題

圏域内における滞留性・周遊性を高めることが必要。

来訪の動機付けとなるような当圏域の観光資源の魅力をより効果的に伝える情報発信が必要。

変化した観光に対するニーズを的確に捉え、振興施策を講ずることが必要

当面、県内在住者の県内における観光需要を喚起していくことが必要。

三陸沿岸道路延伸で観光客の増加が見込めることから、仙台⇄岩手・八戸間の単なる通過点とならないよう、三陸沿岸道路を活用する観光客に当圏域に立ち寄ってもらう手立てを講じることが必要。

圏域へのアクセスを改善することが必要。

## 回復戦略や成長戦略などの方向性・具体的な取組の視点

登米市、栗原市、岩手県南部地域を含めた広域的な観光パッケージの造成など、より多様な観光コンテンツの提供

当圏域の観光資源の魅力や宿泊施設・観光関連施設等における安全安心の取組についての効果的な情報発信

自然豊かな当圏域の特性を活かした新しい観光モデルの構築

県北地域と県南地域を相互に交流した場合の割引宿泊券の発行事業など、県内在住者向けの新たな観光誘引策

各インターチェンジ設置地域の知られざる魅力を掲載したドライブマップの作成やスタンプラリー事業など、三陸沿岸道路とからめた観光プランの造成

交通手段間連携によるダイヤ乗り継ぎ改善や接続交通運行などに対する助成